

龍動と地震

蒋 明智 (中山大学中国非物質文化遺産研究センター副教授) JIANG Mingzhi

日本は地震が多発する国である。その原因について、科学的な解釈では、日本列島は太平洋プレートとユーラシアプレートの境界部に位置し、その互いの運動と衝突によって地震が起こるといふ。だが、科学が発達していなかった昔は、人々は神の力を地震の理由としていた。日本の伝統的な観念に、地震の発生が「龍動」と関連していたという説もある。「龍動」、「龍王動」または「龍神動」が、地震を起こすと考える人もいた。そのほか、「火神動」、「水神動」、「天王動」、「金翅鳥*動」なども地震を起こす理由とされていた。武者金吉編の『増訂大日本地震史料』(1941~43 文部省震災予防評議会)によれば、1006年2月から1443年6月の間に、京都では21回の地震が起こり、1460年2月から1482年10月の間に奈良では10回の地震が起こり、これらの地震はすべて龍神動と関連があると考えられていた。

地震を伴う火山の噴火と龍動との関連も考えられていた。1240年、1286年、1333年に、肥後国阿蘇山で起こった火山の噴火では、多くの人は龍が雲に乗って天に昇っていくのを目撃したという。これらの出来事についての記述は、肥後人吉の『八代日記』などに見られる。

龍動が地震を起こすと思われる理由は、伝説によれば、龍が湖や海、または沼や河川に棲むほか、地面の下にある龍穴も龍の棲む場所とされているからであろう。例えば興福寺の南大門東南の崖下や南山、葛城山、熊野三山、彦山、比叡山などにある龍穴は、日本でも有名な龍穴である。これらの龍穴を互いに繋ぎ、地下を縦横に走る穴道が形成された。例えば弁才天穴道、走湯山の八穴道、熱海社の九穴道などである。これらの穴道が湖や海に繋がっていたので、地震の発生と大きな関係があると思われたようである。

『大日本國地震之圖』では、日本の国土が龍に囲まれて楕円形になっており、龍の頭、目、角、鬚、鱗、背鱗が描かれている(図1)中でも、12の背鱗が12の月にそれぞれ対応しているという。2、7、9月が龍神動とされ、1、5、8、10、11、12月が火神動、4、6月は金神動、3月が天王動とされる。こうして、龍神動が日本の国土・暦・

*本稿は中国語で提出されたものを彭偉文(RA)が翻訳し、また紙面の都合から編集部で手を加えたものである。

図1



大日本國地震之圖(黒田日出男 2003:口絵)

地震と関連付けられた。これは『日本書紀』に見られる龍神が神器を以て「大八洲」、すなわち現在の日本列島を作った伝説にも対応しているのではないかとと思われる。

注目すべきなのは、中国の漢代の科学者である張衡が紀元

132年に作った地動儀にも八匹の龍が飾られていることである。龍の頭はそれぞれ八つの方角を向き、それぞれの口に銅の玉を銜え、玉が龍の口から吐き出され下にある墓の口に落ちると、その龍の頭が向く方角に地震が起こったことを示す仕組みである(図2)ここで見られるように、龍と地震との関連は古くから考えられており、さらなる研究が必要であると思われる。

(蒋明智氏は2007年10月1日~10月14日まで訪問研究員として来日された。)



図2

張衡が発明した地動儀

参考文献

黒田日出男 2003 『龍の棲む日本』(岩波新書) 岩波書店

* 金翅鳥は迦楼羅神の別名である。
(黒田日出男 2003:114)